The Japanese American News

昭和三年七月十五日 (日曜日) 第一万三百十四號

日米

THE JAPANESE AMERICAN
PUBLISHED DAILY AT
650 ELLIS STREET
SAN FRANCISCO CALIFORNIA
PHONE FROSPECT 338
ENTERED AS S. F. POST OFFICE
AS SECOND CLASS MATTER
K. ARIKO, EDITOR & PROP.
SUBSCRIPTION RATES
IN ADVANCE
DAILY.....ONE YEAR..... $11.00
DAILY.....SIX MONTHS..... 5.50
DAILY.....ONE MONTH..... 1.00
SINGLE COPILS ..... 5 CENTS

沿岸協議會自然消滅か

開催意義なし

今月下旬から沙港に於て開かれることになつてゐた太平洋沿岸日曜協議會は、其聯絡日曜が未だに同答がなく、同胞人口の一番多い南加を背景にもつ中央日曜から不参加の通知に接したのや殘るのは米州と加奈陀ク沙港だけであつて之れでは全く氣抜けたビーヤのやうで如何に當番幹事の沙汰ばかりが地團駄を踏んで見ても張合があるまい。

△

沿岸協議會も「ポートランド」を發祥地として成立した當時は隨分問題もあつたし同胞の爲めに相當働きもしたものだが、段々と時が移り、間鹿もなくなつて中央日曜の存立の意義も曖昧となつて來た今日、最早解かる協議會の開催は不必要となつてゐる。重大問題でも起らぬ限り態々解かる會合を持つ必要はあるまい。又たとへ重大問題が起つたにしたとこの會が最早同胞代表機關たる本質を失つてゐる解かる團體に同胞重大問題を協議せしむべき筋合のものでない。

△

最近の協議會の成績を見るに之位の問題の協議に態々高い旅費とタイムをスペンドして參集するには及ばぬといふやうに思はしめられるものが多い。仕事は連絡や統一なきの方面はまだしものこと協議の爲めの協議と思はれるものや有害無益なものもあつた。即ち協議會では如何にも郷山の仕事を爲したかのやうに見せかける爲め有つても無くつてもよいものや到底實行不可能と目されることを平氣で協議してゐる。それが特に最近一二年の協議會に多くなつたやうである。

△

それに最近各日會ともに財源の窮乏から之れが補充や捻出やらの算段を多分に含ませた協議事項も出て來た。其最も顯著な實例は例の在米同胞際經濟會又は在米同胞文化運動と名づける提案である。此の提案は北方の代表者によつて企畫された仕事で在米同胞の際發や文化の名に故國政府又は民間から相當の金を得やうとするのであつて其實質は乏しく自己自身を放棄せんとする傾向が多い。不可能と目されることを平氣で協議してゐる。それが特に最近一二年の協議會に多くなつたやうである。

△

沿岸協議會を監理に押したてることは米人の誤解を招くこと必然である。過去の歴史は雄辯に物語つてゐる。土地法其他の排日問題の緩和策は悉く失敗した。吾等は既に此事を看破して大いに警告する所あると共に其不統一動機を責めたものであつた。これこそ在米同胞を利用する舌肉の策と見られるが全く在米同胞こそは好い面の皮である。

△

沿岸協議會を監理に押したてることは米人の誤解を招くこと必然である。過去の歴史は雄辯に物語つてゐる。土地法其他の排日問題の緩和策は悉く失敗したのを見て、所で自己の存立さへ危まれる。吾等は既に此事を看破して大いに警告する所あると共に其不統一動機を責めたものであつた。これこそ在米同胞を利用する舌肉の策と見られるが全く在米同胞こそは好い面の皮である。

△

今日の日米關係は第二世移民法修正運動の氣運あらねばならぬ。沿岸同胞の代表機關だとか最高協議機關だとか言つた時代はトックに過ぎ去つた。今は無用の長物として厄介視されてゐるのであつて、聯絡日曜は自身中には代表者を送る旅費の捻出にも一苦勞を要するものもある位たから所詮自然消滅の外あるまい。

△

斯く觀察して來ると沿岸協議會の開催の必要は殆どない。事務の連絡や統一位なら別に高い旅費をつかつて貴いタイムを空費するにも及ぶまい。文書の往復で結構足りる。併し聯絡日曜の年中行事として懇親的意味のもので物見遊山式に參集するのであるならばそれは別問題である。

△

民主黨の活動はスミス知事以下同黨の巨頭連が會合して作戰せる結果であるから紙かの注意を惹いてゐる今月の末には兩黨の選擧運動はまつ〜猛烈となる。

△

沿岸協議會の開催は本社の意見を參考として作戰せる。

△

沿岸協議會の開催は本社の意見を參考として作戰せる。

△

沿岸協議會の開催は本社の意見を參考として作戰せ

歸朝者の消息

小野昇六

【十三】

酒井廣作 酒井病院長 東京市麴町區飯田町四ノ一七

歸朝後みぎ病院を設立し不幸震災の厄にあつたけれども新築の上開業中最も繁盛の時ため再び永久的建築に取かゝつてゐるが近く竣成を見ることになつてゐる

住原定八 さかゑ料理店 東京市京橋區木挽町一ノ一四

在米中小川ホテルその他で割烹の腕をふるつてゐたが歸朝後繼君のお手代さんは横濱で一時花柳界に身を投じて稼いでゐたが二三年前に廢業して目下は夫婦で右の所で料理店を開業してゐる。

高塚望 東京市外中野谷五六二鈴木方

在米中大河原法律事務所の桑港支所主任をしてゐた氏は歸朝後五車家および國野女學院等の仕事をたすけてゐたがその後ウエスチングハウス東京支社に入社し販賣部主任として重要視されてゐる。

なほ氏は年笠井嘉吉氏の媒妁で美しい現夫人を迎へたが夫人は母校大江女學院出身で輝くばかりの美人で家庭的にも幸福な家庭をつくつてゐる。從來固執してゐた獨身主義を變

設放業したわけだが目下の氏は事務その建かりしことを感じてゐるといふからなだそうだことほど左樣に現在の氏は幸福である

田崎武尾 ライオンタクシー 東京市外杉並町阿佐ヶ谷八七

歸朝後京橋桶町に事務所をおいてライオンタクシーの名稱をもつて開業をしてゐるが近く來東京では開業が成績もよいことと思つてゐる

手島三之助 東京電氣時計會社 東京市外中野町高圓寺谷中六〇九

氏は右記會社の重役として特に營業方面を擴張して活動してゐる

渡邊勇次郎 東京市外下目黑八六 日本泰國倶樂部

日本泰國界のパイオニアとして斯界のために獻身的努力をした結果日本の泰國も世界的に認められるやうになつた。同氏は目下右記クラブの會長に就任して今なほ斯界のためにつくしてゐる

八代武之助 骨董品 東京市赤坂區青山北町七ノ一

在米中日米銀行にゐた氏は歸朝後一時安那銀行に關係してゐたが一昨年これとの關係を斷つて自ら骨董品を開業して現在にいたつてゐる

加奈陀で又々反東洋人勞働問題

組合本部や領政府にまで問題の調査を具申して

十日晩市發電としてハースト系英字紙のつたふる所によるとビーシー州ではシングル製材所武藏の白人は領政府に對し事件の調査を要求すると同時に組合本部に事情を具申して白人勞働者の仕事が東洋人に喰込まれることを徹底的に防ぐのだいつてゐるよしであるが、そのいはゆる事件の內容については、未だ明かに報ぜられず、したがつて如何なる程度の問題であるかは詳報を待つとするも

何時もながらカナダ地方における勞働問題はうるさいの對策を講ずる方針であるさいこゝいはれてゐる

ヒリツピン人の農園勞働を排斥

華州勞働大會で決定 電力會社と學務課にも反對

（沙港發）ウエナチにおいて去る九日から三日間の會期で開會せられたる華州勞働聯合大會において十日には、西部華州における水力を電力會社が一手に自由にせんとする陰謀あることを痛擊せる演說を、シャトル學務課が勞働歸合に屬するものをハイ・スクール教員に採用せざることを攻擊する演說とで午前中は持切りとなり、午後には十三個の決議文を通過したが、電力とユニオン教師に關する決議文は追つて通過さるべき形勢なりき、またヒリピン人が、綿ヶ渡來することは勞働聯合の注意すべき點となりて、またかれ等が農園や果物園に勞働することを排斥すべしと論ずるものあり、多分これも決議文となりて通過せられたるなるべし

國籍離脫者

桑港總領事館を繞て屬けいでた國籍離脫の中六月二十三日付で受理告示のあつたもの左の如し

綱野敏雄 都雄 好雄 梶原幸 以上七名 榎本三惠子 栗代 林よし子 海田千代子 清實 八重子 光江 中元勝 豊孝代 山本勉 岩雄（藤村）二俣基明 清 三枝 久保正美 雪子 道子（山東）古江ハツエ 吉田孟 稔（奥府）藤村佐千江 美惠子 千代子 岩崎齊 忠 河田エツ子 道子 森重熊太郎

加奈陀で又々反東洋人勞働問題

組合本部や領政府にまで問題の調査を具申して

（前記）

（布市）樹脂政明 岩見屋富美子 愛子 鐵雄 盛田壽三郎（桑港）岩見屋照一 岡本義人（河下）栗原馨 常藏 藤肆（キングス）松宗好子 千鶴子 正行（サリナス）竹嶋順德 雄波斌 晃彦（樣亞）宮脇陸夫（アラメダ）村上 晃（ヒ岩瀨）福井貞治（ネバダ）丹波茂富（須市）

神奈川縣人會

新役員

八日の總會で

桑港の神奈川縣人會定期總會は八日開催された左の諸氏が役員に選ばれたさ

▲會長 露木武雄
▲副會長 清水岩次郎
▲幹事 渡邊義雄
▲會計 佐藤八郎 小宮仁三郎
▲慈善委員 安藤仲二郎
▲常議員 鈴木 剛 佐藤常二郎 伊藤市五郎 尾崎龜三郎 山崎作造 加藤市藏 石塚喜一郎 吉村德輔 伊丹伊助 佐宗忠久 府川久太郎 府川晃三
▲相談役 天野仁衛兵 鈴木鶴之助 塚田知二郎

ロッキーに登山

北田正三氏渡米

目下沙港に滯在中

（シャトル發）日本山岳會ジンビング氏は「日本の溪谷美」と題し約三時間にわたる講演をなすことになつた聞會中は北田正三氏が去る十日入港のパーロッキーのカナダ、アルバイン、クラブ招待をうけてきたもので九日午前中は同市の山岳會關係者を訪問し種々打あはせをなしたが暫時シャトルに滯在の上スポーケンをへてカナダ、ロッキーに入り今月十七日から二週間にわたりパンフの奥のハンギングレーシヤで開催されるカナダ、アルバイン、クラブ例年のキャンプに出席し「日本の溪谷」および附近の踏峰踏破を試み八月十日再び桑晩しべー山にのぼり最後にレニヤ山に登つて八月二十六日のロンドン丸で歸國する

今村究師の名炙好評

大日本鍼灸專門學院出身の今村究師は目下加州ホテルに滯在し

フクを儲す時はいつでも、それ等の女子のお母さん方の一人二人が、青年のた御自分のタイムをさいて、責任をもつて彼等のシャプロンになれます。これ等のお母さん方は、監督者だからこいつてシカメ顏をして青年を睨むことのかはりに、アンダスタンディングの心さいかに慈母らしいあたかい心をもつて、これ等の無邪氣な男女の中にまじりて、彼等を助けられたる同時に、いかしたらば良き子供等を樂しますことが出來るかに努力されます日本人師ではさうでせう。事勿れ主義のお母さんは「彼の愛する娘を所謂箱入娘的にそだてて得ない。娘ばかりの不滿反感を買、放任主義のお父さんは、息子の監督を怠りて墜子をスポイルしてゐられます。日本人のお母さん方で、果して幾人青年男女のパーチーや會合に娘のシャプロンとして、よろこんで出席してくださるお方がありませうか、もしも私等のお父さんお母さんが、私等のいろ〳〵の會合に御出席くださつて、私等のスルことを直接見聞して間違つてゐる所は御教へくだされ、よき所はお賞めくだされば、私等はいかに程元氣づくことでせう。それだけよろこぶことでせう。

先日もある地方の青年會內の女子部が、白人看護婦の好意によつて看護婦の講習をうけその卒業式の折是等の處女の二世の教育、二世の將來、二世の何々といつて、おなた方一體のお方は、私等のため口先では隨分熱心なことを云はれますが、事實はこの通りです、其だ悪いことですが、私等のように力一點のお力を疑はずにはをられません。さうか今後は、忙しくはありませうが三回に一度か四回に一度は私等の會合に出席して、私等男女青年の交際ぶり、また活動ぶりを見てください。現在二世の者が最も痛切に感じてゐることはこの一事であります。

市外高校

日本人進級者

南バンクーバ・ハイスクール

▲二學年へ兵頭忠雄、ヂエ弁手

▲三學年へ エム鈴木 エツ子 花月

▲二學年へ 小野よし

日曜の諸教會

▲日本人基督教會 日曜學校 午前十時 禮拜說教 午前十一時

【就會問題と基督教】秦敎師 聖歌隊習 午後七時半 夕拜 午後八時

勸請會 司會者 眞吉三郎

本月中は桑敎師、S、大會組合長老兩會年會および加州長老教會大會に出席せらるるにつき說教の代りに說美歷史會を催す

萬國聖書研究會 二一六八ファッシュ街

【黃のクリスチャン】

日曜午後七時四十五分 日本語研究 外村 義郎

【聖約は何時結ばれしや】英語研究會 午後七時四十五分

一般歸迎會 金絕對無用

佛教會 日曜學校午前十時

高橋佐々木兩先生【訓話】各宗持教師

盆會 第一式 午後二時サンマテオ墓地參拜

第二式 午後八時佛教會々堂【說教】 金尾清澄師

日曜學校 午前十時

救世軍 戰 午後一時

聖別會 午後二時 永島大尉

題 拔目斷腕の教 戰 午後七時

救靈會 午後八時 永島大尉

題【迷へる一匹の羊】

決勝戰

伊チエコ先づ單試合に同點

デ孟歐洲ゾーン

（ミラノ十三日）デ孟歐洲ゾーン決勝戰に相見ゆるとになつた伊國選手とチエコ、スロバキアの選手はその第一回單試合に勝ちを米銀行にゐた氏は歸朝後一時安那銀行に關係してゐたが一昨年これとの關係を斷つて自ら骨董品を開業して現在にいたつてゐる

南加大學より七勝六敗

庄司氏短信

渡日中の南加大學野球團の東道役として同行した庄司氏よりの左の如き短信があつたその後御無沙汰いたしました眼疾と多忙のためペンをとるとき實動するのみでしたが、耳學問かなく只スケジュールに從つて實動するのみでしたが、耳學問は熱心にしてゐます關東關西で七勝六敗の不成績ですがスポーツマンシップでほめられ微

一日本郵便一

日本へ（フエ・ヲ島經由）

七月十五日午後五時四十分【同十七日沙港發アリゾナ號】

七月十八日午前九時十分【天洋丸號】

七月廿日午後一時十分【ピアス號積】

七月十日午後七時四十分【同十二日沙港發カナダ號積】

七月十二日午後七時四十分【同十四日沙港發マデソン號積】

七月十三日午後一時十分（ハリソン號積）

七月廿日着【コレヤ丸積五月橫濱發】

七月廿三日着【同廿一日沙港着ルシヤ號積十二日橫濱發】

七月十一日着（ペピス号積廿七日橫濱發）

七月十日着【同八日シャトル着パリス丸積廿六日橫濱發】

七月十六日着【同十四日シャトル着加茂丸積廿日橫濱發】

物件欄

洋服洗染所 市內好位置利益確實にして最新式設備完全主人東行のため格安に讓りたく希望者は左記へ 18344 Irving St., S. F.

貸店 リニヨ附洗濯業にはパンスタンド街一八二九、十九アーニュ近く邦人間の有利なる新式設備完全唯一の製造及洋食店開業人東行の爲格安に讓渡し

洋洗所 目拔の場所五ケ年リース有り格價に讓りたし（イト街一四七六）

貸間 日當よりフロント室ケツチン付夫婦者に適す 桑港デビサデロ街四二五

貸間 ケツチン付日當りよし 二十ドフロア高級なる住宅 日當りよくヤード廣し 一ドフロア高級なる住宅 日當りよくヤード廣し

貸家 日當りよく室 長 商店 日當りよく室 長 商店

貸間 日當りよく室 ブキャナン街一八三六

貸間 日當りよく室 ブキャナン街二〇六二

貸家 五室家具附フラット貸したし ポスト街一八一〇

貸間 日當よく二間續家附付子供なき方他に獨身向きあり バイン街二〇四一

貸間 日當りよく室 ブキャナン街二〇六二

貸家 日當よく二間續家附付子供なき方他に獨身向きあり バイン街二〇四一

貸間 日當りよく室 ブキャナン街一八三六

之れは奇怪なり 政府が密告勸誘

五弗乃至二百弗を呉れる 全國的反對が猛烈たらん

禁酒法勵行の窮策

此の布告は 電報で 以て南加の

禁酒法を勵行せゝるといふのを反對黨からつねに攻擊される現政府は、今度思ひ切つて全米の市民に對して、禁酒法違反者を密告したものには金をくれるといふ布告を出した。金五弗乃至二百弗をあたへるから大いに教てくれといふのである。そしたら華府政府の禁酒本部から賞金を三十日以内に支拂ひするといふのである。その布告の結果全米市民は當然に全官または牛官に禁酒違反の密告者になつてしまつて五弗から二十五弗を、密醸酒の貯藏所發見を導きをすると五弗から百弗をやるといふわけであつて、酒飲みを知らず知らず一層増加して大騒ぎが起らうと云ふことだ。なほ全國的には猛烈な反對も豫期されてゐて、却て禁酒法勵行の窮餘の拙策に終るかも知れぬと觀測してゐる向もあるといふ。

禁酒官エフマクレイナルド氏より桑港へつたへられた、桑港の禁酒官は華府へ赴きつゝあるのである。そしたらどこの代理はこゝに在であるが、その代理はこゝの布告は良好の成績を收め得やうと語つてゐる、この新法の結果、密告が増加して二、三百弗の賞金を得るものは激増し從つて密醸者同志の爭鬪は一層増加して大騒ぎが起らうと云ふことだ。なほ全國的には猛烈な反對も豫期されてゐて、却て禁酒法勵行の窮餘の拙策に終るかも知れぬと觀測してゐる向もあるといふ。

北加野球大會の會場と期日決定

米人委員は前約を取消 邦人野球大會に會場を

桑港日本人實業團主催の北加聯盟四回戰がデシジョンでつひに各野球大會開催の件は期日なら中村の勝利となつた、これで中目下の紛爭中であるが成行如何では十八回迄著かゞの好成績を保持してゐる

桑港日本人實業團主催の北加聯盟四回戰がデシジョンでつひに各野球大會開催の件は期日なら中村の勝利となつた、これで中目下の紛爭中であるが成行如何では十八回迄著かゞの好成績を保持してゐる

チームへの 會場は昭和クラブを借用することに確定し期日は八月十一十二の兩日と決定した。右決定によつて實業團は直ちに委員總がかりとなつて開催準備に着手しテケット賣捌方法を各出席

正式交渉等を開始した因にこの會場借用に關しては米人側で多大の犧牲を拂つたもので十一、十二の兩日は既に前約ありその催しの廣告等も雖聽等に掲載しテケットは既に前約ありその催しの廣告等も雖聽等に掲載しテケットは既に前約ありその催しの廣告等も雖聽等に掲載しテケットは既に前約ありその催しの廣告等も雖聽等に掲載しテケット印刷濟みとなつてゐるのである。

昭和クラブは、本年新たに桑港體育青年聯盟に加入しその第一回の催しが昭和體育クラブが交渉の結果同

新小說

世紀の夜

尾崎士郎作 【百卅二】

矢車草（十四）

「お祖さん、ーー何でもないのよわたし今日はね、いろ〳〵なことがあつたの、それから北野さんといふ人がね、荒川さんの手紙を持つてきてくれたのよ」

「荒川さんさいふと」

母はちよつと考へこむやうに小首をかたむけてから、

「上海で暮してゐる人ね。ーーぢやあの人はもう歸つたと見ねるんだね」

「さうぢやないのよ、ーーあの人が上海から日本に歸るお友達に手紙をことづけたのよ」

美和子はそつと優の中へしまはせた。母の顏は淋しさうな微笑がうかんだ。彼女はそれとなく娘の戀の相手である、ことを氣づいてゐたところの若い小說家の顏をはつきり思ひだしたのである。すると娘の幸福に對する羨感がかすかに彼女の頭をかすめた。しかし、その感情を押しかくすために彼の女はくるりと美和子に背を向けて、

「ぢやあ、お祖さんはすこしやれてるが、決して左樓ではないんで結局消化不良といふことなる。これから日を追ふて暑さが加はり人々が盛んに汗をかいて水分が欲する季節には、乳兒にもまた適度の水分を與へなければならない。元來、乳兒はその體重に比して大人より約二倍强の皮膚組織であるが夏季にはその發汗の面積を持つてゐる。從つて皮膚からの發汗も多いわけである。發汗が多ければ多い程、水分の要求も發汗の量に正比例して多くなる。わたしの運命とあなたの運命とがぴつしりと結び付いてゐることを知つてゐるからだ。のなたは何時もわたしの胸の底に美しい瞳を輝かして坐つてゐる。わたしたちは二人の人間ではなくて、うまつたく一つのものになつてしまつてゐるのだ。しかし、美和子よ、わたしの生活は輪々として移り變つた。わたしは乞食のやうな放浪者になつて楊子江岸をぶらついたり、秦淮河畔になまめく綠燈の灯かけをしたふ羽虫のやうに、酒を追ふて暮してきたのです。半年の間にわたしはすつかり變つてしまつた。香しわたしがあなたの前に現れたさしてもきつと昔のおもかげを探しだすことは出來まい。ーーわたしは今日、南京の街で古い友人である共產黨員の北野さいふ男に會つたのです。その男はあなたとは多少の因緣がある、わたしが上海へゆく前の中に北野から託された祕密書類を北野が上海で捕縛されたときに、こつそり書類のはいつた白い封筒の上にあなたの名宛が書いてわたしの宿に

美和子よ、あなたと別れてから、もう半年あまりになるのに、わたしは一本の手紙も書かなかつた。わたしの運命とあなたの運命とがぴつしりと結び付いてゐることを知つてゐるからだ。のなたは何時もわたしの胸の底に美しい瞳を輝かして坐つてゐる。わたしたちは二人の人間ではなくて、うまつたく一つのものになつてしまつてゐるのだ。しかし、美和子よ、わたしの生活は輪々として移り變つた。わたしは乞食のやうな放浪者になつて楊子江岸をぶらついたり、秦淮河畔になまめく綠燈の灯かけをしたふ羽虫のやうに、酒を追ふて暮してきたのです。半年の間にわたしはすつかり變つてしまつた。香しわたしがあなたの前に現れたさしてもきつと昔のおもかげを探しだすことは出來まい。ーーわたしは今日、南京の街で古い友人である共產黨員の北野さいふ男に會つたのです。その男はあなたとは多少の因緣がある、わたしが上海へゆく前の中に北野から託された祕密書類を北野が上海で捕縛されたときに、こつそり書類のはいつた白い封筒の上にあなたの名宛が書いてわたしの宿に

踏こんできた刑事の眼がごまかしたといふことを何時だつたか、お話したことがあるでせう、その北野です、わたしだちは種人のやうに抱きつてしみ〴〵と泣いたのです古い南京の街は電燈の強燈を當つて古飛的な美しさが古壁のやうに壞れてしまひました。わたしは久し振で北野さと二人で秦淮河畔の旗亭にのぼり老酒の盞をかたむけながら泣みあなたのことを思ひだした、そして手紙を書く氣持になつたのです。月光が波に碎けてゐます、河畔をめぐる

家庭常識

嬰兒には適宜の水を與へよ 泣くのは空腹ばかりではない 無暗の授乳は惡い

一般に乳兒には乳以外に何もなくとも夏季は活動が鈍つてゐる。のであるから、早速過ぎに惱まされ、結局消化不良といふことなる。これなぜは親の無理解によ乳兒は少くとも百〇五グラムはる。のである。暑熱が加はり氣溫必要である。暑熱が加はり氣溫が非常にあがつた日など、乳兒は水分をあまり與へ過ると、下痢をするだらうと考へる人がある。無論度を越しは胃腸を害するのは當然すぎる程當然のことなる

南加版

支社電話MU（ミューチュアー）八四一五

植木組合の拵へる日本館前のお庭

七百弗をかけて築造する日本式燈籠も二つ立てる

去る廿日覽會の日本館ガーデンは雰氣多き砂地なるを以て、旁植物園の同館植木組合が築造を引き木の保存に困る譯だから當業者の受け目下、その準備中であるがこの所有する朝鮮芝を狩り集めて、のことにつき財濱逸藏氏は語る芝草に代へ、そこに各種の鉢物を籠も二フィートほど立てる積りなれど滴る日本庭園を見せることが出何分地質が全くの白砂にて樹木や緑草を培養するの力なく殊に百弗位の盆栽であると

十一日から十八日迄日程

各國代表共連日連夜議事演説觀光夫〜多忙な一週間

S.S.大會

この日を「世界日曜デー」と定め各代表は市内外の教會の日曜學校に出席し、多くの講壇は代表者により受持たる

午後の催し

チャプマン氏司會

△二時　感謝祈禱會

主題「基督教界の市民」

感話！クナ（墨國）船橋幸松（日本）フオスター（樣洲）ガリヤ（比島）ザング（支那）タフト（雑育）

夜の集會

△八時「世界風歌の祭」聖林ボール にて、マビー夫人指導、夕非說教ベール博士、同晩シユライン會館において南年の集會を開き、十六才より二十八才までの男女を入場せしむ

說教者デヴイー（エヂプト）ヘイワード博士（シカゴ）ボーリング博士（雑育）

十六日

朝の集會

△十二時十五分　ジョンバンヤ各小國代表の會合

午後の集會

△三時　講演「バンヤンと子供」主題「バンヤンと子供」

フラトン博士指導

△二時三十五分　追悼ダンカン博士

△二時五十分　大會の過去と將來（前記報告、英國委員の報告）

△三時十五分　ジョンバンヤ三百年記念午餐

フレスノ（十三日）

童話大會

布佛主催で中加各地に

大關尚之師の

既に南加各地に於て得意の童話試演をなし毫二世は勿論のこと一般同胞にも多大の喝采を以て迎へられつゝある元本派本願寺日曜學校主事大關尚之氏の來布を機としフレスノ佛教會宗教々育研究部主催の下に同氏にこふて各地の佛教日曜學校を左記の地にそれ〳〵童話大會を開催することなつたので會場確保の上は申すにおよばず一般父兄は勿論同伴のうへ是非とも奮せられたいと

連絡日程

▲十五日(日)午前九時半 ファラーホール ファラー

▲十六日(月)午後八時 リードレーホール リードレー、ダイニューバ

▲十七日(火)午後八時 パレヤホール パレヤ、デルレー

▲十八日(水)午後八時 ボールスチヨーチ ボールス、マンモス

▲十九日(木)午前九時半 布市佛教會堂 フレスノ、ブラフクストン及びフレスノ以北各地

▲十九日(木)午後八時 セルマホール セルマ、キングスバーグ

百〇六度

中加らしい暑さ

これまでめずらしく涼し過ぎたほどの氣候が本週はじめごろからあつさなくはへだし昨日は百度にのぼり本日もそれにおとらぬ暑さかく書いてるペンのインキがすぐかはいて書きづらいことおびただしいこの暑さは富分つゞくであらうがこれで中加らしい氣候となつて葡萄がぐん〳〵熟する

佛教學園 卒業式

盛大に擧行さる

本日午前十時半から佛教會附屬學園の卒業式が擧行され藤井教師司會のもとに同氏護者代表坂本節治、日米女新聞社長吉田孝雄氏の祝辞、卒業生總代表中岡勝校長の答辞、中岡勝校長の訓辞、卒業生總代表中岡勝校長の答辞、中部伊川稔氏の演說にて式を終り記念撮影後さらに佛教婦人會料理の卒業

▲祝賀午餐會 が祇園にひらかれ校友の太田いさみ編、松田茂君の懷舊談、演中、村島、加藤三郎の合唱、來賓諸氏のスピーチ及び卒業女生一同の合唱などあり和氣藹々裡に午餐飲情した一夜にいつての午餐會もさだめし盛會を呈するこゝだらう

女子青年會主催 活動寫眞

水戸黄門漫遊記

王府女青が主催となり「水戸黄門漫遊記」全二十卷の大映畫を來たる二十二、三(日、月)の兩夜市公會堂三階に於て每夜七時半より開演する、前映畫はさきに麥嶺邦語學園主催で開演し大好評をはくしたるものなることはすでに世人のしるところなるが當時天下の副將軍の身をもつて股肱わじに身をやつし六十餘州を行脚して民狀視察を行つた水戸光國の逸事は實に興味のふかいもので日本に於ける屈指の史傳である、弱きをたすけ强きをくじき、ここに全卷滑稽にみち、さすが日活會社の超特作とするだけあるものがある、婦士は日吉川秋月嬢が演じ、紳士は日吉川秋月嬢が演じ、紳士は日吉川秋月嬢が演じ、紳

サクラメント（十四日）

來る二十日頃から ピーチ製罐開始

本年は就働希望者多し

當市のシー、ピー、シー鑵詰ピーチ製罐は春作スピーチおよびトメトーなどにアスパラの製鑵をなほ一時休業中なりしが、きたる廿日ごろからピーチの製鑵開始すべしといふ。本年は世間一般が不景氣の際、キャナリー就働希望者多く會社では可及的多數に仕事をあたへる方針なりとなるものゝやうである。白人、日本人、支那人、墨國人など鑵詰の男女がはたらき賃金をうるがため、第二街ピー何のシー、ピー、シー工場の仕事がはじまれば同地タウンの商賣も活氣づいて金融が活潑になつてくるのはあるそはないと現象である

トラックカー 汽車と衝突

重藤タメチャーに破損しが操縦者は無事

昨十三日の朱曜三時ごろ當市太平洋貿易の米をトラックーに滿載してフレスノ市に運搬すべく某日本人がトラックをドライブして第十九街一某街附近にさしかゝつたときウエスターンパシフィック鐵道會社の貨車にトラックーの後を突あたられトラックーはノチャーに破損したけれども幸に操縦者は怪我なく難をまぬかれたりと

櫻學園 夏期學校終了

當市サクラ學園の夏期學校は昨日保證書を提供し、讀者はこれに十三日をもつて終了したれば本十四日、十五日、十六日の三日にわたり佛教會パーラーに通學の生徒の作品展覽會を開催する

▲たゞ讀者の一百の余名作品を陳列し一般に公開するこゝろ

▲たゞ讀者の一百の余名作品を陳列し一般に公開するこゝろ

隨分と 暑いお灸

市内ヴェ街四丁目三百一番に住むエム、イー、サンフォードなんとか男と自動車のヘッドライトをテールライトに點ぜてしかもライセンスもなくしてドライブしたいふ廉で昨日廿五朝の一時ごろ五間ごろ交代になるこゝ五間ごろ五間ごろ交代になるこゝ五間ごろ五間ごろ交代になるこゝ五間

A Newspaper For All Peoples Interested In The Welfare of Japan And the Japanese People

The Japanese American News

THE LARGEST JAPANESE NEWSPAPER PUBLISHED OUTSIDE OF JAPAN

The largest English Section Published Daily by Any Japanese Paper On This Continent

NUMBER 10314 | Entered at the S. F. Post Office as Second Class Matter. | SAN FRANCISCO, CALIF., SUNDAY, JULY 15, 1928 | Copyright 1928 by The Japanese American News | Per Month $1.00 Per Year $11.00

GERMAN BLIMP HOPS FOR JAPAN ON WORLD TOUR LATE IN AUGUST

Japanese Envoy At Berlin Cables Home

TOKYO, July 14.—(Special)—The Japanese Ambassador in Germany has sent a telegram to the Aviation Bureau of the Communications Department officially requesting that preparation be made for the huge German dirigible, Elsatz No. 127, the most up-to-date type of Zeppelin, which will start on a round-the-world flight at the end of August, landing only twice, at Kasumigaura and Lakehurst, N. J., U. S. A., during its globe-girdling flight.

The dirigible will be commanded by Dr. Eckener and manned by a crew of 35. Starting from Germany, the monster of the air will fly across Siberia, thence Vladivostok and Sado Island and will will land at the Kasumigaura airport, via Koriyama and Utsunomiya.

It will then proceed on the second lap of its flight, from Kasumigaura to Lakehurst, flying over the south Pacific. The distance will be 11,000 kilometres from Germany to Kausmigaura, and 13,000 kilometres between Kasumigaura and Lakehurst, making a total distance of 31,000 kilometres.

The capacity of the Zeppelin is 105,000 square metres, and it is about 15 times larger than the Japanese Navy's N-3 which exploded a few years ago.

Dr. Eckener, now 60 years of age, famous scientist and skipper of the dirigible, constructed the new airship with public contributions amounting to 4,000,000 marks, which were originally collected with the object of building a dirigible for the North Pole flight.

ON VISIT TO MEXICO

PALO ALTO, July 12.—(Special)—Henry Mitari, together with his mother and Miss Mary Hoshi and her parents, Mr. and Mrs. Hoshi, are now on a trip through Mexico. The party spent the Fourth of July in Los Angeles.

After a 10-day vacation, they will return by way of Colorado.

ATTEND S. S. CONVENTION

SALINAS, July 14.—(Special)—Among the Japanese delegates from this city to the World Sunday Convention now in session in Los Angeles are Rev. and Mrs. Watanabe of the Presbyterian church and Miss Shizuko Sugimoto.

THE WEATHER

Official weather forecast:

Sunday: Fair. Moderate temperature. Moderate to fresh westerly winds.

BEFORE

Here we find President Coolidge ready for a session on the lake, rod in hand, waiting for the fish to do their nimble stuff.

YOUNG FOLKS ARE HONORED

Fresno Gakuen Pupils Are Graduated Friday

FRESNO, July 14. —(Special)—The Rev. I. Kyogoku delivered an inspiring commencement address at the graduation exercises held Friday morning when 14 students of the local Nippon Gakuen of the Buddhist church received their diplomas in the Buddhist auditorium.

Representing the graduating students, Miss Shizuye Nakaoka and Minoru Igawa spoke on their aspirations and impressions of their school days. Other speakers at the exercises included S. Sakamoto, representing the "Hogosha" of the Gakuen and K. Kameno of The Japanese American News. A memorial photograph was taken following the exercises.

At noon a delightful graduation luncheon was held in the Social Hall. Miss Isami Ota and Shigeru Matsuda, alumni of the school gave talks recalling their experiences as students of the gakuen. A vocal trio by the Misses Hamanaka, Murashima, and Kato won a warm applause. Several speeches by graduates and friends and singing of school songs concluded the program of the dinner.

In the evening an elaborate entertainment featuring the musical play "The Dream of a Queen" was attended by a host of students and friends.

TRIBUTE WILL BE PAID DEAD BY BUDDHISTS

Two Hundred Expected At San Mateo Sunday

The Rev. K. Takahashi of the local Buddhist church will pay high tribute at the outdoor services at the Japanese burial grounds in San Mateo to those among the local community who have passed beyond.

More than 200 people, which is the usual number attending these annual services sponsored by the Buddhist church, are expected to journey to the grounds for the exercises which will start at 2 o'clock. Following the formal program, which will include several addresses by Buddhist representatives and the Buddhist ritual of "shoko," tea and refreshments will be served by the ladies of the church.

Another feature of the program to commemorate the Feast of Lanterns, which falls on Sunday, is the evening devotional to be held at the Buddhist Church on Pine Street starting from 8 o'clock. The pricipal sermon will be delivered by the Rev. Kanao Kiyozumi, evangelist from the Hompa Hongwanji Temple of Japan. Rev. Takahashi will preside.

Young people of the church, including members of the Y. M. B. A. and the Y. W. B. A., will make a trip to the San Mateo Japanese cemetery early Sunday morning to clean the graveyards there. The party will leave the church at 7 o'clock in automobiles.

JAPAN

And Things Japanese

Japan and Things Japanese, a section devoted to present-day news and views and ancient facts, regarding the Japanese people and their country is a regular feature of the English Section.

KOBO DAISHI

Japan's Most Popular Priest

If you ask any Japanese "Who is the greatest priest in the history of Buddhism in Japan?" Priest Kobo will invariably be mentioned as such. Nichiren, Shinran and Honen were priests of saintly virtues in their way, but when sectarianism is not considered or so far as popularity is concerned, Priest Kobo stands prominently above all other Buddhist priests in Japan.

Priest Kobo or, as he is otherwise known, Priest Kukai was the son of one Sayeki at Byobu-ga-Ura (Folding-Screen Creek) in the province of Sanuki. The wife of Sayeki had no issue and she prayed to the Three Buddhist Treasures for a son. One night she dreamed that a holy priest entered her breast and a son was born to her on June 15, 714. The baby was named Kisha (Precious Person) which was the childhood name of Priest Kobo.

Soon after the birth of Kisha, it is recorded, an administrative inspector came to the province of Sanuki to see the conditions of the people. Large crowds of people lined streets wher the magistrate passed. All of a sudden he stopped and dismounted from his horse to pay homage to young Kisha, who was carried in the arms of his mother in the crowds. When asked why he did so the high official said in explanation that Kisha was guarded by four devas who held a canopy over the baby.

When he was six years old, Kisha saw in a dream that Bodhisattva was sitting ont the Eight-Leaf Lotus and he was determined to devote himself to Buddhism instead of becoming a samurai. When in his eleventh year he was asked by his father why he renounced militarism in favor of Buddhism, young Kisha said: "A governor rules a province or two, but a priest gives his influence for generations."

Kisha was formally ordained as a priest at the age of 20 years and he called himself Kukual (literally, Space-Sea). In 804 Priest Kukai went to China with Priest Saicho to study Buddhism. The Chinese Emperor Hien Tsung, who had heard of the skillful penmanship of Priest Kukai asked him to write some ideograms on the ceilings of his palace. The priest lay on his back and holding five pens, one each in his mouth, two hands and two feet, wrote on the ceiling, simultaneously moving the five pens, so that the surprised emperor conferred on the Japanese priest the name of Priest Five-Pens on account of his wonderful feat.

On his way home from China, where Priest Kukai stayed for three years, a strong storm arose and his ship was terribly tossed on the waves. After praying for the control of the waters, he threw his Buddhist mace (tokko) into the sea. The storm subsided at once, and the mace was afterwards discovered on the branches of a tree on Mt. Koya, Yamato, where Priest Kukai resided as the chief priest of the Kongobu-ji temple.

Great Drought.

The year of 824 saw a great drought in Japan and at the command of the Emperor Junna, priest Kukai offered a prayer for a rainfall. His prayer was immediately answered and the rain continued to fall for three consecutive days and night without stopping. On another occasion, Priest Kukai prayed on behalf of a temple, which was suffering from want of water. A stream of water gushed out of the temple ground. That temple is called the Ryusen-ji (Dragon-Fountain) Temple, a dragon being proverbially related to water in this country.

It is said that the 47-letter Japanese alphabet was arranged as it now stands by Priest Kukai in 816. In this alphabet the priest expresses a Buddhist idea concerning the vanity of human life, which he compares to flowers that "bloom beautiful and fragrant but soon wither."

(To be continued.)

OUR JUNIOR SECTION

TODAY'S NEW MEMBERS

—*—

Tomiko Yano, Rt. 1. Box 127, Bellflower, age 12, birthday, September 10.

J. T. I., 318 S. Monroe St., Stockton, age 11, birthday April 29.

Masaru (Mike) M. Masaoka, 145 Phipps Court, and 76, West First St. South, age 12, birthday Oct. 15

Eddie Hisao Aburamen, 1517 Kern St., Fresno, age 12, birthday May 30.

* * * * * *

BIRTHDAY GREETINGS

—*—

Birthday greeting to Kumi Yamamoto of R. F. D. Box 248 J., Chula Vista, who became 13 years of age on July 13... We hope you've had a wonderful birthday, Kumi.

* * * * * *

Masaru Masaoka, a new member, sends in some clever jokes:

Extra!

Auto demonstrator, (who has been trying for three hours to sell a car: Now I'll throw in the clutch.

Uncle Egbert: I'll take her then. I knew that if I held out long enough you'd give me sumpin'.

IN THEIR NATIVE LAND

This is the first photograph of Miss Setsuko Matsudaira, fiancee of H. I. H. Prince Chichibu, attired in Japanese costume to be published in this country.

This picture, which shows Miss Matsudaira with her father, Tsuneo Matsudaira, recently appointed Japanese Ambassador to the Court of St. James, was taken shortly after the return of the Matsudairas from this country to Japan.

BRIDE-TO-BE ALTERS LIFE

Setsuko-Hime Assumes Japanese Ways

TOKYO, July 14.—From American atmosphere to Japanese atmosphere.

This is the change Miss Setsuko Matsudaira, Bride-elect of Prince Chichibu has affected in her temporary home in Shibuya where she is awaiting the coming of her wedding day. Today her father, former ambassador to the United States said he would train his daughter in Japanese fashion, including manners and mode of dressing.

Recently the members of the ambassador's family donned their comfortable Japanese dress and enjoyed the first evening after their long sea voyage, partaking of the dinner sent by the Empress of Japan.

* * * * * *

OUR JUNIOR SECTION

* * * * * *

TOKYO SEES BLOCK PRINTS

Works Are As Good As Those Of The Past

TOKYO, July 14. —(Special)—Hasui Yoshida, two Americans and one Briton are represented in the annual exhibition of modern woodblock prints in Tokyo this year. The prints being produced today, are on the average, fully as good as those of the Tokugawa period. While none of the present-day artists can be proclaimed a Hokusai or a Harunobu, some of the work now being done is certain to live through the coming years.

A few first-rank Japanese artists have deserted the earlier mediums in which they have worked and have turned to the wood block print. Outstanding among these is Yoshida, who exhibits 30 prints this year. He not only does his original drawing, but carves the wooden blocks and does his own printing. Most of the artist are content to leave this part of the work to the crafts men.

Like Water Colors.

The influence of the water color is pronounced in the work of most of the modern artists. Some of the prints seem at a little distance to be water colors rather than wood block prints.

Shunsen Natori has followed traditional canons in going to the theatre for his themes. He is turning out excellent prints of the actors on the Japanese stage today. Shinsui Ito is fond of portraying women. Neither of these artists is represented at the present exhibition.

Catches Shades

Yoshida excels in catching and reproducing the delicate shadings of Japanese atmospheric conditions, in this land of mists and rains, of sudden sunshine and of hazy distances. One print of a home-coming fishing fleet off the Japanese coast reflects the fading glow of the sunset and the chiller light of the rising moon. Others show the twilight, mists at sea, dawn and other aspects of the atmosphere. Several times he has given four moods to the same scene, such as dawn, high noon, twilight and after dark, by varying the coloration on the same blocks used in the print.

Miss Lillian Miller, an American girl, born in Japan, daughter of the American Consul-General at Seoul, has 17 prints in this year's exhibition, all of Korean subjects. One landscape of at river boat with orange sails seen through the branches of a pine tree is outsanding.

Miss Elizabeth Keith, an English woman who has recently exhibited in the Uited States in recent years has eight prints of display. Roy Baldridge, best known in America of all this year's exhibitors three prints which are merely labeled Peking No.1, No. 2 and No. 3. The walls and watch towers of Peking, with their enchanting, artistic lines are seen in two of the prints.

LOCAL BOYS PASS TESTS IN S. F. POOL

Awarded American Red Cross Life-Saving Badges

Put through a series of strenuous tests which lasted for over an hour and a half, Jack K. Fukushima Susumu Nanbu and James Toba of the Showa Club scored high averages in the life saving examinations at Fleishhacker pool and were awarded American Red Cross Life Saving insignia and the coveted certificates issued by the A. R. C. with President Coolidge's signature Saturday morning.

The examination was conducted by David Yamakawa, who was assisted by the Red Cross examiners and members of the Showa Life Saving Corps.

Has Bad Cold.

Jack Fukushima came out in good condition although he had not quite recovered from a severe cold which had prevented him from taking the tests a week before.

James Toba, star swimmer of the Marin County Junior College and former member of the Humboldt Club of San Francisco with a record of eight years of competition in A. A. U. Track and Fields meets, again showed his class in the aquatic events after four years of training at the Mt. Tamalpais High School.

Passes Senior Tests.

Susumu Nanbu of football and baseball fame, successfully passed the Senior tests with a high percentage and only failed in the age requirement of the Senior class. Nanbu is the first Japanese either in this country or Japan to get the Junior Life Saving emblem.

It was announced by the board that he will be given the senior certificate without further trials as soon as he reaches his seventeenth birthday.

Girls In Swim Tests.

Miss Lessie Suyenaga, Miss Mary Shibata and Miss Tokuko Taketa will take the swimmers test Sunday afternoon. According to the examiners who have watched these young mermaid, they are certain to pass. Miss Suyenaga will try for the senior swimmer's test.

According to Percy Slaiter of the S. F. Chapter of the American Red Cross Showa Club gave examinations to 36 American swimmers and awarded 21 buttons and two certificates.

Showa Club is the only Athletic club west of Chicago authorized to conduct master swimmer tests. Swimmers passing the Showa life saving tests will be accepted in the American Red Cross, Royal Life Saving Academy of England and the United States Volunteer Life Saving Corps, as well as all the other organizations, such as the Boy Scouts, Girls Scouts, Sea Scouts, Camp Fire Girls, Police department and High school and College life saving corps.

Hawaii Group Will Welcome Visitors Here

LOS ANGELES, July 14.—(Special)—The Hawaii Association of Southern California, an organization composed of Japanese born in Hawaii, will tender a welcome banquet to the 17 delegates from Hawaii to the World Sunday School Convention now in session in this city. The affair will be held at the Sanko Low on the evening of July 21 at 6:30 o'clock.

IDA TO GIVE DINNER

Consul General Morikazu Ida will give a dinner Monday night at the Nippon Club in honor of Secretary Raymond C. Brown of Hawaii, who is now in this city conducting a court of inquiry at the Stewart Hotel with a view to establishing the birthrights of children of Japanese ancestry, born in Hawaii who have failed to have their births recorded.

JAPANESE GIRL OWNS LARGEST FARM LANDS IN STOCKTON DISTRICT

AFTER

And, here we have the President with his first fish of the season. This photograph and the one at the left were taken at the Summer White House.

Miss Sannomiya Operates Celery Ranch

STOCKTON, July 14.—(Special)—The largest Japanese farm in this locality and one of the largest in the state is operated by a second generation girl, a former co-ed of the University of California.

Her name is Miya Sannomiya. She operats a farm of 360 acres devoted to celery culture, and has now under employment two hundred laborers. The farm, situated on the delta lands of the Sacramento and San Joaquin rivers, produces one of the biggest crops of this locality and constitutes one-twentieth of the entire celery land of the Deltas.

After the death of her father, Umetaro Sannomiya, in the fall of 1926, she has taken over the complete management of the vast tract. While at the university prior to her father's death, she had been one of the leaders of the students at Berkeley and was elected Western Division chairman of the National Student Y. W. C. A., an honor to which no other Oriental girl had achieved before her.

Miss Sannomiya was a member of the Second Kengaku Dan, a student's study tour of Japan conducted in 1926 by The Japanese American News. While in Japan her personality and eloquent speeches gained for her wide recognition among leaders of that country.

LEAVE FOR VACATION

Thirty pupils of the Soko Gakuyen (Buddhist Language School left Saturday morning at 7 o'clock for a week's outdoor summer session and vacation at the Russian River.

The party was led by the Rev. K. Sasaki, Mrs. Okamoto and Mrs. Tuskanami. Miss Itoko Tsukuda will join the party at the camp ground Monday.

TO BUILD HIGHWAYS

Japan's Project To Cost Six Hundred Million Yen

TOKYO, June 20.—(By Mail)—A ten-year highway construction program to build 1,500 miles of national highways and 3,700 miles of "industrial" highways at the total costs of 580,000,000 yen, has been tentatively decided by the Home Office. This program is in line with a Seiyukai plank of industrialization and calls for a subsidy of 232,000,000 yen from the national treasury towords the various prefecture coffers.

To start this extensive program, the Home Office has decided to request that 10,000,000 yen and 2,000,000 yen hespectively be included in the regular budget for next year and the additional budget for this year. The national highway plan calls for the total expenditure of 400,000,000 yen with the national subsidy of 152,000,000 yen. Out of this, 7,000,000 yen will be called for in the next year's budget. The program calls for 1,500 mile extension of national highways, 175 mile improvement of streets connecting with these highways in 71 cities, and 75 mile improvement of military highways.

The so-called "industrial" highways will be selected from the routes of the present prefectural highways. The plan calls for placing in this "industrial" class about one fourth of the present main prefectural highways to the extent of about 3,700 miles. The total cost of this plan is estimated at 180,000,000 yen out of which 60,000,000 will be subsidized by the central government.

For this latter class of highways, the government policy is to meet one-third of the total expenditures borne by the various prefectural governments, and inasmuch as some of the prefectures have already started the construction of these highways expecting the subsidy from the central government, the Home Office will request 2,000,000 yen as additional budget for this year and 3,000,000 yen more to be included in the next year's budget.

THE ROMANCE OF JAPAN

Through the Ages

By

JAMES A. B. SCHERER

An Interpretative Outline of the Story of Japan from the Introduction of Buddhism in 552 A. D. to the Passage of the Manhood Suffrage Act in 1925.

(Continued from yesterday)

4

To such stricken folk the Portuguese priests came with unwonted kindness. They gave alms profusely. Moreover they came proclaiming a new Goddess of Mercy: Mary, with a child in her arms,—Kwannon and Jizo combined. And instead of the chill Heaven of transmigration and ultimate extinction proclaimed by a decadent Buddhism, they held out warm hopes of personal immortality, of reunion with the loved dead in houses not made with hands, eternal in the heavens.

They preached, too, the remission of sins: not sins in our sense of the term, for of such a concept the Japanese were ignorant, but of remission of "tsumi," the nearest equivalent of sins—the blotting out of innumerable and unconscious transgressions against the multitudinous dead, against those ancestral ghosts who demanded daily propitiation.

Above all shone the ideal of sacrifice, which has always moved men to devotion; in this case the supreme sacrifice, as symbolized in the crucifix.

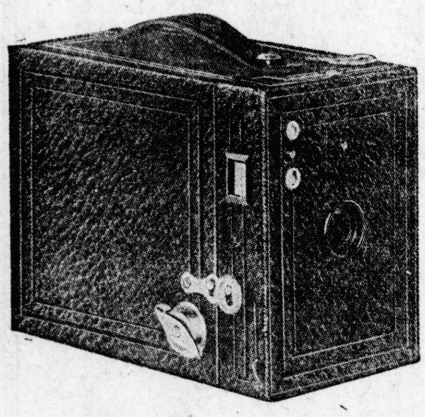
Jesuit missionaries found temples and a ritual made to their hand, a circumstance of the greatest assistance.

The Roman rites resembled those of popular Buddhism; the people would have observed but little that was unfamiliar to them in the forms of the service, the vestments, the beads, the prostrations, the images, the bells, and the incense. The virgins and the saints would have been found to resemble the Boddhisattvas and Buddhas; the angels and the demons would have been at once identified with the Tennin and the Oni. All that pleased popular imagination in the Buddhist ceremonial could be witnessed, under slightly different form, in those temples which had been handed over to the Jesuits, and consecrated by them as churches or chapels. The fathomless abyss really separating the two religions could not have been perceived by the common mind but the outward resemblances were immediately observable. There were furthermore some attractive novelties. It appears, for example, that the Jesuits used to have miracle-plays performed in their churches for the purpose of attracting popular attention.

(To be continued.)

Through Special Arrangements With Publishers

Boys and Girls FREE!



HOW YOU CAN GET THIS CAMERA:

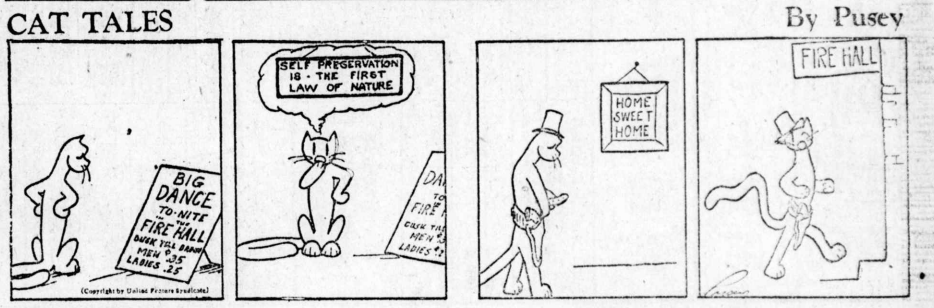
GET TWO NEW 2-MONTHS SUBSCRIPTIONS OR ONE NEW 4-MONTHS SUBSCRIPTION TO THE JAPANESE AMERICAN NEWS WHICH AMOUNTS TO $4.00.

Circulation Manager
The Japanese American News
650 Ellis Street,
San Francisco, California.

Dear Sir: Please enter my order for a ( ) months subscription. I have paid $_____, to _____, a Junior Club member.

Signed (By Subscriber) _____
Address _____

Order taken by
(Junior Club Member) _____
Address _____

CAT TALES

By Pusey